

水源禅師法話集 78

(2017年5月5日 大阪合宿7日目)

2018年3月5日

一乗禅の会



ソウル 韓国の尼僧の御寺にて

目次

水源禪師法話.....	3
あちこちに情緒があった水源禪師の子供の頃.....	3
偉大な数学者たちは仏教に非常に興味を持っていた.....	4
単位はスメリアカルチャーから.....	5
科学者たちは仏教の真髄の凄さをわかっていた.....	5
法華経.....	6
兜率天.....	7
阿弥陀の国.....	9
ブラックホール.....	10
阿羅漢.....	11
阿羅漢は自分の弟子にしか教えない.....	12
水源禪師がパオまでたどり着いた経由.....	13
ジャータカ物語「ロースアップルとジャックフルーツ」.....	14
ゴータマ仏陀がお猿さんだった時のお話し.....	15
「もうあなたは熱を冷ましなさい」.....	17
ニミッタが安定するまで動かないでジーツと1時間位ただただ観る.....	18
因縁でしか仏の近くに行けない.....	19

水源禪師法話

あちこちに情緒があった水源禪師の子供の頃

今日はリクエスト形式で行きますか。何かこう言うお話を聞きたいとか。もし無かったら私がお話しします。

今日で、もう7日目。良く頑張りました。それで、こう言うC e l l p h o n eとかH a n d y p h o n eとか、まあ録音機とか。私の小さい頃を思い出したら、こう言う電子機器を見たら、まあ夢の様な話で。私達が小さい時の時代は、このH a n d y p h o n eとか録音機とかC e l l p h o n e あるでしょう？これはただ空想科学小説を私は良く読んでいましたから、その時はまあ私の頭では、未来の人はこう言う物を使うという事で、宇宙の彼方の人はこう言う物を使うとか。そういう事で、まあこうして見たら、やあ、今からもう60年したらこう言う空想科学の電話が突然出て来て。

その前はね、やっぱり武士道とか、心を磨くとかね。剣道とか柔道とか、そう言う世界でした。今から見たら、私達は真面目で、その時代で二階建てが町の中にあって、普通は殆ど平屋で。どこの家でもちゃんと垣根と庭があってね。ちょっと大きい家は茶室を持ったり、茶屋を持ってね。それから、もっと大きい武家屋敷では、池とか魚とかちゃんと持って、良くその塀を超えて錦鯉を盗んでみたり。でも、怒らないでちゃんと主人が私を見ながら「あ、子供が来たな」って、もう何千といるからね。それだけ王様だったわけですね。

今はもう全部消えて無い。そう言う武家屋敷の近くは、また他の武家屋敷では、鴨が池に留まる様に、まあ天皇陛下が、その何て言うか、鴨を捕る様なあれもちゃんと持って。まあ、そんな風な町で育ったものだから、私ももうやんちゃでね、好き放題しても誰も怒らないし、まあ「あの子がまた飛んでいるな」みたいなもので。今だったら大変でしょうね(笑)。まあ、おおらかだったのですよ。お寺でもでっかいお寺、何だか駆け巡って、和尚さん怒らないしね。ドンドンやっても。

今だったら大変だと思いますよ。何故かまあそう言う風な時代で、空想科学小説が大好きで、ずうっと読んで、読んで、読んで。まあ、そう言う宇宙人とかいるのか？何とかという事を空想しながら、星を見たり、学校仲間には日本国立天文台の教授になってみたりね。話しをしたり。

まあそんな風な学生時代とか思い出したら、何て言うのかな。まあこう言う物を作って、こうして何とも感じないけれども、この技術はやっぱり人間の考えで出来てないのは良く分かります。小さい時からそっちの方ばかりみていたから。特に日本で造ったスバルと言う望遠鏡があるでしょう。あれが私の同期が造ったのですよね。だから、まあそういう事で、そう言う天才的頭脳を知っているものだから、これ（携帯電話）は作れない(笑)。特に、トロントでもトップ級のそう言う天才頭脳とは良く話しをしますから、その時のアイディアとか、話した時には、こう言う考えは一つも無いで

す。

偉大な数学者たちは仏教に非常に興味を持っていた

特に私はフリーエナジーと言うか、Nuclear fission、あのFusionとFissionとあるわけ。Fissionと言うのはね、核分裂、原爆。長崎。Fusionと言うのは核融合、水爆。それをどう言う風にして取り出すかと言う、そういう風な事にとっても興味があったけれど、全部止めて。それより数学の方で究極の世界を知りたいと、数学の方に行ってね。それで、「やあ」。これ、般若心経を読んでもう空の世界にとっても興味があるから、「わあ、これは数学ではとっても無理だ」と。もう空とかそういう世界は、こんな遅い学問では、この数学で100年、200年やって分かるわけないと。

ところが、一般社会ではそういう数学で全部基本がなっていますからね。ところが、数学ほど不安定な学問は無いわけです。いつ崩壊するか分からないけれど、全てその数学の基礎の上に立って、建築とかロケット工学とか皆出来ているわけですよ。原発とか。

だから、そういう西洋文化の、その時はトロントって言ったら全世界から学者が来るわけです。それで、お医者さんもね、トロント大学の医学部で客員で、ちょっとやれば格が上がるという事で、東京大学とか、そういう信州大学とか横浜市立大学とかそういう教授達が来て勉強してくわけです。何故か私はそういう所で一緒にお話しさせていただいて。だから、そういう方はもう非常に優秀で。だけど、私の同期と話しても、これを作るだけのアイディアは一つも無いですよ。

こういう風な、サイエンス・フィクションの本を読んでいるから。アーサー・C・クラークと言う。これ以上を出た空想科学小説家は未だにいないです。彼は10年か20年前に死んだのかな、スリランカで。何故その考えが出たかと言ったらやっぱり、仏教に興味があるわけですね、仏教に。

それで、イギリスの人だけれど、スリランカでずうっと住んで、そこで死んで行きました。やっぱり、スリランカと言う大地は非常に不思議な土地でね、私ももう4回くらい行ったかな。まあ、そこで命を全うしても良い様な、そんなエネルギーがあってね。また、風景も良いし。生活は分からないのですが、人は本当に、農耕している人とかそういう人は、何か時間を超えた生活体系で静かに生きています。もちろん、人間だからもっと良いものが欲しいとか色んな事があるのでしょうけれど。

それで、何か特にアインシュタインとかオッペンハイマーとかそういう人達はインド哲学仏教とか仏教に非常に興味があってね。それでドイツの人は大体200年前にパーリ語経典をドイツ語に全部訳しているわけです。それで何故大乘のを訳さないのかなと思いつつ。それでやっぱり今こうしてみたら、なるほど、大乘の経典はね、ちぐ

はぐになるわけですね。飛ぶわけです。この前説明した様に。

単位はスメリアカルチャーから

西洋の方はとっても…、ライブニッツ数学とか言って、微積分、カリキュラス。それから、ケンブリッジのサーアイザックニュートンのカリキュラス。それが人類における最高の英知を集めた知恵だと。それで、私がやっぱり微積分の基本の究極の所を知りたいという事で、トロント大学はケンブリッジ数学系で、私が本格的に習ったのはウォルター大学のライブニッツ数学です。まあどっちも、世界最高の数学を誇る大学なのですね。そこでちょっと勉強させて頂きましたけれども。それで、なるほど、すごく緻密なのですね。高校時代、数学習ったけれど、「ポーン」と「これこれだ」と、微積分だった、そうではない。Canada ではもう完全にミチミチ教えられた。ダンダンダンダン。「なるほど。これだったら、明快に分かるわ」と。私はこの日本で高校時代はあんまり良くないわけなのです（笑）。サボるし。

ところが、そう言う緻密に突き詰めていく文明ですね。何故これが出来たかと言ったら、やっぱりスメリアカルチャーに行きつくわけですね。6000 年前。で、スメリアカルチャーの単位があるのです。その one grain(グレイン)と言うのは、grain と言うのは穀物。それが重さになるわけです。それから volume(量)になって行くのだけれども、イギリスの pound(ポンド)、foot (フィートの単数形)、measurement(寸法)があるでしょう。日本でいえば、一間、それから一尺。それから spanish pond、foot もあるわけです。Spanish inch、British inch、German inch と。日本でもね、クジラ尺とかそれから標準尺とか。升も私達がちっちゃい時はね、東京升かそれから弘前升か、その地方の殿様によって少しずつ違うわけです。

でも、基本的には全て解析すればスメリアカルチャーの単位に戻るわけです。それで、そのスメリアカルチャーには、やっぱり「神は天から降りて来た」とか、そう言う事を全部書いてあるわけです。それで最もびっくりするのは、スメリアンカルチャーのタブレットには、明快に微積分のカリキュラスが載っているわけです。図を見たら、「あ、これカリキュラスだ」と。

科学者たちは仏教の真髄の凄さをわかっていた

それで数学者とかそう言う人が非常に宗教に興味があるわけです。特に仏教とヒンズー。そして、どうしてそうなのかと言ったら、やっぱり幾ら勉強しても、何と云うのかな、心が何か物足りないわけです。何か物足りない。幾ら突き詰めて行っても、何か手探りでモヤーっとしたもので。

それが最高の英知と言う数学を使ってもそうで、特にびっくりしたのは complex number in polar form (極形式の複素数) と言ったって分からないでしょう。そのクルクルと回った algebra (代数学) でね。algebra と言うのは、何て言うのか、 $x+y=x^2\cdots$ とかそんな公式があるわけでしょう。それで、何とこの形式はもう貝のあれと同じ図形を示すと。そしたらこれはもう 20 億年も遠い昔にもはやこう言う物が出来ているのだから、人間が考えたものよりもこの自然の方がずうっと進化していて、もはやあると。ただ私達は解析しているだけで、その不思議さと言うか、そう言う物を思い当たるわけですね。私の場合は。特に理工でずうっとやって来たものだから、そう言う物がすぐ分かるし。

それで、一番びっくりするのは、遠い 遠い昔の彼方に 6000 年か、もうカリキュラスのそう言う、土板があるでしょう。それにこう図形を描くタブレット。タブレットと言ったら、そのタブレット(土板)で。英語の「タブレット」と言うのは平たいもので、薬もタブレットを飲むと言う。ちっちゃいものになれば、薬を飲むタブレットで。土をこねた平たい瓦みたいのも、タブレットと言って、それにずうっと書いて。それで「タブレット、タブレット」と言うけれど、そういう事で。

それで、ずうっと見たら何故そう言うトップの科学者が、どうして科学者が宗教にそれ程興味があるのかと。法華経を読んだ時に一番びっくりしたのは、もう人間の頭では考えられない、空想小説では考えられない、スターウォーズの映画なんかね、私の目から見たらもう幼稚園並みで。もう凄い事が書いてあるわけです。と言うのは、私は空想科学小説が好きだから。それで、もうその法華経には地球くらい大きい生命体があるのですね。本当に地球くらいでっかい宇宙船と言うか、そう言うのが今分かっているようです。飛んでいるのですよ。もうそれ読んだらびっくりしてしまっで。「いやあ、仏教って言うのは凄い」と。

でも、経典ばかり読んでだったら、そこを外すでしょうね。分からないから。だから、そう言う法華経に書いてあるところ、一緒になって空想科学本も読んでいる人いるのかな？

法華経

【参加者】

法華経読みました。

【水源師】

そうでしょう。ありますよね。巨大な太陽みたいな生命体。だから、そう言う古書を読んだら、もう私としてはもう驚愕してしまうわけよ。「わあ、凄いものだ」と。お釈迦

様の教えは、人類の英知を遠く 遠く離れたものを持っていると。

そういう事で、人間はそう言うね、最高の頭脳を持った方。まあ天才で、まあ凄いのでしょうけれど、そう言うオッペンハイマーとかアインシュタインが、何故原爆を作ったのかと。素晴らしい頭でなければ作れない。それで、その素晴らしい頭で大量に殺すと。英知の粋の粋を集めた頭で、結果的には人間を殺してしまうという事を考えていた。今日ずうっと。

だから、結局人間の英知と言うのは、本当の宇宙の英知に比べて、これは英知でも何でもない。ちょっと気が狂ったのか、天才とキチガイは紙一重とまさに何時でも同じ事をやっているなと思ったわけですね。まあ、それでこうお釈迦様のお話を読んでも「まあ、そうなのか。そうなのだろうなあ」と納得行く様な体験談がいっぱい書いてあるわけです。

まあ、それを始めとして、ここで何かこんな話を聞いてみたいとか言うリクエストがあったら、それに則ってお話しますが、何かありますか。こう言うお話を聞いてみたいとか。

兜率天

【参加者】

僕、ちょっと天界の話が聞いてみたいです。

【水源師】

ああ。天界ですか。天界のどう言う話が好きですか？」

【参加者】

そうですね。僕、結構地獄界の怖い所とかちょっと読んだ事あるのですが、あんまりその天界の良い所を読んだ事がなくて、出来ればちょっとぼやっとしているかもしれないのですが、素晴らしい所をお聞かせ戴ければ。

【水源師】

えっと、私は死んだら兜率天に行きたいと。そう言う願いを持っているから、やっぱり来世は兜率天に生まれる事になっているわけですね。と言うのは、もうそこで昔、願いを訴えたものだから。来世はそこに生まれると言うビジョンがちゃんと明快に観ているけれど、これは変わる。未来は変わるから、確定的ではない。それで、そういう事で天界を明快に観ています。事細かに話せば、もう科学小説より凄いですよ。それがちゃんと 経典に書かれているわけです。私は読んでいなかったけれど、読んだらちゃんとそう書いてあった。

それで、その天界と言ってもね、この欲界、欲界の中に地獄界から第六天までであるでしょう？この地上からずうっと。それからその上にまた色界があるわけです。ブラフマンの世界。それで色界の上は無色界があります。無色界はもう体を持ちません。その代り無色界でね、生命を全うする時間帯が大体6万4千回この大宇宙が発生消滅する時間帯。だから、ピカピカピカピカ光っているだけ。ブラフマンになればもう巨大な体でね、人間はもうちっちゃい蟻みたいなもので。

それで天界に行けばね、兜率天とかそういう所に行けば、あのこう何て言うのかな。よくテレビとか映画でも、非常に綺麗に見えるでしょう？ピカピカッと鮮やかに。全てそうです。全てそうです。それで、人もゴチャゴチャ住んでない。それぞれ館を持っている。広大な。全ての天界の人は大体16歳位の姿で、誰も彼も綺麗な着物を付けている。誰も彼もやっぱり天人、天女の姿形で、そういう所で何もしなくても、全て自動的に出てくるわけ。これが欲しいと思ったらちゃんと出てくるわけです。

ちょうど今はそれに似てね、これが欲しいと思ったらクレジットカードでスーッとやったら出るでしょう。昔はそうではないのです。「お金、ちゃんと持っているか」と。そう簡単に手に入らないけれど、今はお金が無くても、「はい、はい、はい」引き出せる。まあ、それに良く似ていますね。

まあ、それで天界の物質は、同じ様な物質でも、やっぱり非常に純化された物質で、その触り具合と言えは絹の様な触り具合です。そういう物質で、この地上界、この一面ゴロゴロしている。これだけの違いがあるわけ。天界と、時空が全く違います。時空が。そういう風に存在します。まあ、それで良いですか。

【参加者】

はい、有難うございます。

【水源師】

で、こう言う風に私の先生に報告したら、「君は、仏教経典読んでいるんだろう？」「いや、さっぱり」(笑)と。という事は、正にその通りみたいです、経典も。私は読んでないけれども、そう言う風に書かれているみたいです。

【参加者】

それは、どの天界でも修行って言うのは出来るのですか？

【水源師】

出来ません。たった兜率天だけの特別な森の中だけでしか修行は出来ません。そこが全て金キラとか鮮やかな緑、鮮やかな道路。もう全て汚いものは無し。全て美しい。それでその一画だけが修行出来て、弥勒菩薩がそこにちゃんとおります。白い服を着

ている。その代り弥勒菩薩は、天女の様、天人の様な顔ではないですよ。もっと普通の様な顔だけれど、ずうっと座っていますね、そこで。何故か。

阿弥陀の国

【参加者】

ちょっと、浄土のお話をお伺いしたいのですが。阿弥陀様の。何か真ん中に大きな木があって、それから何か色んなメロディーとか出て来て。それで、何か、それに抱き付いたら凄い気持ちが良いだろうなあとと思ったんですけど。

【水源師】

たぶん、あなたの大きな木と言うのは、巨大で、超巨大で、阿弥陀の国ではないけれども、それは観音様のお姿なはず。そして、抱き付くどころか、ビルディングよりでっかいのだから。木の周りが大きい。巨大に天を突く様な大きさだから、それは観音様の化身と言う、観音様そのもので、緑で、想像を絶する大きさの事をあなたは言っているけれど、私が阿弥陀の国を観た時には、やっぱり非常に荘厳でね、建物もいろんな金色とかそう言うのがあって、まず阿弥陀の国に行ったら孔雀が出て来ます。それで、何故か阿弥陀の国は、水の上に御殿があるのですね。私が行った所は。そして、私が観た阿弥陀の国はね、天から花びらがサアッと散って来て、非常に心地良い音楽が流れていました。但し、阿弥陀の国でも虫がおります。虫がおります。虫もそこで生まれています。それで、良いですか。

【参加者】

あともう一つ。ちょっと僕は来世どこへ行こうかなと思って、先生のお話を聞くと阿弥陀浄土。やっぱり…。

【水源師】

そこ、おすすめですね。あなたも仏光山で一生懸命したから、切符は持っているから落とさない様に。一生懸命、精進して行ける様に。

【参加者】

先生のお話をお伺いしていると天界って言うのは、美人ばかりで…。

【水源師】

そう、美男美女ばかり。全て、生まれる時はその形になります。ここで生まれれば、

人間の私達の顔。生まれる所によって変わります。

ブラックホール

【参加者】

すみません。朝お話して戴いた、お坊さんが「マル」って書かれて、真ん中がないって言うお話をもうちょっと聞きたいです。

【水源師】

うーん、やっぱりね。DNA こうあるでしょう。宇宙人も DNA があるわけ。殆ど人間に近い96%とか。それから殆ど、もはや人間と同じ様な構造を持っていると。DNA。そして、その解析をした時には、こう2つがこうなっているわけです。4つのあれで組み合わさって、こう繋いでいるって言っているけれども。こう上から見たらね、DNA がクルッと輪になって、真ん中が無いわけです。真ん中がクルッとなっているわけです。周りだけがしっかりと組み合わさっているわけです。こう上から見た場合には。

それで、「ああ」。やっぱり、偉いお坊さんはこう本当の根源を観たら、結局クルッとそう言う風なもので、この銀河系も真ん中はブラックホールでね、無いのかあるのか、全部吸収されてゼロなのか大きさがあるのか、無いのか。三次元でね、だから、何処から見ても、そこの近くに行ったら無くて時間が止まると。今の（物理学では）。ところが、宇宙人の科学によれば、それに飛び込んで行けば他の空間に入ると言う。だからロケットで行かなくても、そこに突っ込んで行けば、他の時空に出ると。それで、全宇宙がそう言う風なね、通路が出来ていると。この地球の側にはあると言うわけなのです。

それで、結局そのブラックホールと言うのは、もう極言すれば、お坊さんの描いたブツと、こう一筆で「マル」を描く。それで、おしまい。それを結局もう禅のお坊さんは、公案を与える時にパーンと書いて「これは何か」と。「回答せよ」と。だから、全部観なければいけない。体感しなければいけない。体感しなければ、頭をパーンと殴られる。回答。

だから、韓国の通度寺2000年の御寺は厳しいですからね。全てのお坊さんの頭は割られる。パーンと傷ついて。何故かと言ったら、公案をやらせて、やらせて、やらせて、その時期があるようです。偉いお坊さんは。その時機を見てパーンと叩いた時に、絶対的なものが観えるみたいです。それで。だから、「あれ？これ全部頭割られている」と。「いや、痛いだろうな」と。本当にバツサリ割られているから。でも、叩かれた本人はその時に凄い栄光を受けて、痛みも何にもないみたいです。後は分からないけれども、「ワハハ」と笑うくらいで、「そうだったのか」と言う、それ強烈なあれだけれども。

結局そう言う手法を取ったのは、やっぱりダンマヌパッサナー（法随観）とか言う、そう言うキチキチしたお釈迦様の教えは到底 難しいしね。コンピューターみたいな

解析になって行くから、今の私達はコンピューターを知っているからね、理解しやすいけれども、その域に到達したら。昔はそう言う物が無いものだからね、法随観の場合は非常に難しかったのかもしれない。

阿羅漢

【参加者】

今この地球にアラハト(阿羅漢)様って言うのは、何人ぐらいいらっしゃるのでしょうか？

【水源師】

私が観たのは33人くらいかな。但し、皆さんに、この世には出て来ませんよ。殆どヒマラヤに行って出て来ない。非常に長寿で、そう言う方達は。たぶんこの地球を守っていると思う。摩訶不思議に、この南北大陸に3人います。アメリカ人ではない。そう言うクラスはもう岩の中に住んでいるから。だから「おかしいな？」と思ったら、グランドキャニオンに巨大な仏が座っているのですよ。穴の中に。それで、納得いく。

まあ、こう言う話も聞いた事がないでしょう？いや、それは私が行をある程度終えた時にチェックしたら観ました。観えるわけですね、強烈なニミッタがあるから。だから、その皆さんが思っている仏教と、経典仏教と実際はもう遠く天に離れた知識の違いがあるでしょうね。こういう事で。普通はね、やっぱり一般の人を教える為に、噛み砕いて大体心理学とか心の悩みとか、仏教は違うでしょう。もう崇高に高い所に繋がっているから。それは一般の入り口は良いけれども、段々やって行ったら、本当の事を知って行かなければ心が進化して行かないから。

だから、偉い、偉いお坊さんが「100年坐っても意味が無い」と。やっぱりそう言う「工学とか知識を持った若い人が坐ってくれなければ、進化しない」って言っている。宇宙の事も分からなければいけないから。お坊さんが言っている。お坊さんが。行の進んだトップクラスですけど。それを聞いて、私は若い時びっくりしてしまって、「お坊さんと宇宙？」って(笑)。

でも、そういう事を言ったらね、一般的には、「あれおかしいお坊さんだ」と日本ではなるけれど、やっぱり韓国ではもうトップクラスだから誰もおかしいとも思われないし、「はあ、そうなのでしょうねえ」と。ただ、分からないくらい崇高なエリアにいるから。だから、その人の書く手紙はね、北京で読みましたけれど。私の友人が北京大学の教授で手紙を貰った時、切手も何もないのですね。ただダーッと書いてサッとそこに。その北京大学の私の友人の教授がびっくりして、「これ何様でしょう」と言う感じで。まあ、そういう事でどうでしょう。

阿羅漢は自分の弟子にしか教えない

【参加者】

アラハト様はヒマラヤにおられて、先生のようにこう瞑想法教えたりとかそういう事は？

【水源師】

しない、しない。無駄、無駄。無駄、無駄。会えない。チベットのニンマ派のね、今から…92歳だから、もう100歳超えているかもしれないし、死んだかもしれないけれど、この人が最高の瞑想法を持って、誰にも会わない。洞窟に住んで。たった一人、自分の弟子一人だけしか会わない。ダライラマ様も会えない。会わないよ。そう簡単に会えるものではないのですよ。本では幾らでも会える。でも、本物には会えない。会っても、手をほどいて教えてくれない。

私も三回もダライラマさんに会ったけれど、ただスーッと凄いエネルギーですよ。それがもう教えです。だからそれ受け取るか受け取れないか。こう言う風に瞑想を誰も教えないよ。偉い先生。だーれも教えない。パオセヤドーだって教えない。解説しないで「はい、やりなさい」。出来ない。おしまい。それでおしまい。だから、こんな教え方したら怒られると思います。懇切丁寧に解析してこんなに見せたら。虎の巻を見せたら。

と言うのはね、何故かと言ったら、これを真似る人がいっぱいいるのですよ。これ悪用して、さも私の様にしてしまう。だって、この日本で誰一人として正式に教えている、その瞑想法を誰一人として書いていないもの。見たら。だーれも無い。実践でしか教えないしね。実際に。全部ちぐはぐ。特に、「さもありなん」はみんな嘘。みんな嘘(笑)。ところが、あなた達はその「さもありなん」でそれでもう、てんでデタラメを皆さんに分かっているようです、「さもありなん」は皆さんが分かるわけがないから、それは嘘なのです。分かった？あなた方、皆「仏だ、仏だ」って、あなたは仏が分かっているの？あなたに分かる仏は皆偽物。本当に仏に出逢って本当の事が分かる。それで、皆さんが、「仏はこうだ、ああだ」と言って、「そうだ、そうだ」って言ったら、それは全部偽の仏。だから瞑想も一緒。「あ、瞑想はそうだろうな」それは全部、まあ、まやかしと思った方が良いでしょう。まあ、それが私達の現状。

で、そう言う風に偉いお坊さんがドンドン出てくれば良いのだけれど、本当の行者が。やっぱり言っておられました。今、修行寺は全部潰れて、お墓のお寺だけだと。だから、修行寺は全部土地を売り払って、それで細々と暮らしていると。と言う風にもう修行する人がいないし、したくないし。という事はね、国がおかしくなるのですよ。国が潰れます。だから、ミャンマーって言って、貧乏な様だけれども、法を持っているからね。法を持っている国。だから、スリランカのお坊さんでもミャンマーに行くのですよ。本当に修行したい人は。タイもそうです。カンボジアもそうです。それだけ凄いのです

よ。貧乏な様でも。後は、チベットがありますけれど、チベットはそう簡単には教ええない。チベット語を分かなければダメなのです。

私がある因縁で、「いや、先生探しました」と。「ダラムサラで。会いますか」って。「いやあ、私は英語しか出来ないし、会っても通訳がいないし、もう良いよ」って言って、私は南に下がって行ったわけ。エローラ、アジャンタの洞窟を見に行って、南に下がってグルッと回ったのですね。やっぱりチベット仏教を正式にやるには、そう言う偉い先生から、チベット語で直接学ばなければ、学べるわけがないし。そして、一生をかけなければいけない。最低20年。最低20年。それも基本でそれからもっと行を進めば、まあ一生をかけるつもりで入らなければ、教ええない。

水源禪師がパオまでたどり着いた経由

私も非常に幸運でヒマラヤの山を越えて、ダラムサラに降りて、そこからラダック、シャンカール・ゴンパ、つまりキリスト様が修行したと言うそのお寺に行ったらグルッと回って、マリーナかな？マラーナって言ったかな？そこでチベットのお坊さんがすぐ優しくしてくれて、「いやこれから私は山に入って修行する」と。新聞紙大体5、6枚かな、マッチ、あとは袋一つで「山でずーっと修行する」って言う。これから修行に行かなければいけない。私も時間があつたらね、時間はあるけれど私の予定があつて帰らなければ行けないから。それでも1年くらいの長期旅でね。それでその最後にたどり着いたのがパオなのです。それで、ずーっとやったら、スーッと行ったものだから、それであっちがびっくりして「そのまま居れ」って。そのまま居たら、カナダ方で搜索願出して(笑)。「すぐ行って、帰って来るから」って言って、帰って。それで、スーッとやったわけです。

だから、その途中でパオに行かなければチベットに居ったか、そのまんま。そうでなければ、もうサラジェイって言ってね、チベットのお寺で一番大きい5000人のお坊さんがいるのですよ。バンガローに。その偉いお坊さんが「君の名前がちゃんとあるから、そこに行きなさい」って。「もう登録してある」って言う。だから、どこに落ちるか分からない状態。スリランカで偉い…まあ、最終過程はその方で、何かやっぱりパオに私は腰を下ろしたわけですね。それで、凄いご褒美を貰ったわけですね。サラジェイに行かなかった理由は「20年」。だって私、もう60歳なのに何で80歳、どうしますか。「いやいやいや、大丈夫」って。そう言っていました。



クアランプール マレーシア

ジャータカ物語「ローズアップルとジャックフルーツ」

えっと、この話はサンスマラ・ジャータカ (Suṃsumāra-Jātaka) って言う中の話で、題目は「ローズアップルとジャックフルーツ」と言う題で、お釈迦様がジェータバナ (Jetavana : 祇園精舎) でお話した時の事で、デバダッタがね、彼を殺そうと何回もしたと。それでその僧院の比丘達がそれを話していたわけです。それで、お釈迦様がそこに来て「彼は私を殺そうとしたのはこれが最初ではなく、何回も私を殺そうとしている」と。それで、その時の過去の話をしたわけですね。

この話はね、1860年代に今のモスクワの南あたりの伝説と非常に良く似た話でね、その時の伝説では、ある海の王様が「私はとても賢くなりたい」と。それでその家来に「私はどうしたら賢くなれるのか」と。そしたら、その王様を補佐する参謀官が、「いや王様、キツネの心臓を食べたら賢くなりますよ」と。「そうか」と。そしたら、「よし！家来の大臣、将軍全部、狐さんを連れて来なさい」と。皆で行って。それで、その時…、これはロシアの話。まだお釈迦様の話は始まっていません。

それで、ずうっと海で行って、クジラさんも皆一緒に行って、恭しくキツネさんの前で、「あの是非私の海の国に来て下さい」と。「王様があなたをお待ちしています。」と。「あなたの考えを聞きたいから、是非来て戴けませんか。」と、そしたら「ああ、そうかそうか。なるほど、私が海の王様に呼ばれると言う凄い事だ。」と言うわけで、「はい、は

い」と言って、クジラさんの背中に乗って、ずうっと海の上を航海して行ったわけですね。波を打ちながら。

それでちょっとキツネさんが「一体何の意見を聞きたいの？私の」と。「いやあ、実は王様はあなたの心臓を食べて賢くなりたい」と。「そういう事で呼んでいます」と。そしてキツネさんはね「ああ、何だ。そういう事だったら前から言ってくれたら良いのに。私は心臓を持ってないのよ。私の心臓はね、あの森の木の上に掛けているから、そこに行行って取って来なければ、王様に持って行けないよ」と。それで「空のこの体で王様に持って行っても、あなたは怒られて大変だよ」って。「あ、そうなんだ」という事で皆で又戻って、陸地にポッと上がったたら、キツネさんが「君達は本当に大馬鹿だね」と。「この世でどの生き物だって心臓は体の中に入っているのに、誰も木の外に掛けませんよ」と言う話だった。まあ、こう言う非常に似た話だったわけです。

ゴータマ仏陀がお猿さんだった時のお話し

お釈迦様の場合はこうですね。ずうっと昔にお話ししたのは、お釈迦様がヒマラヤの山の下でね、お猿さんとして生まれたわけですね。その時のバラナシの王様はブラフマダッタと。よく、「Once upon a time, while Brahmadatta was king …」と。何でお釈迦様は何回も同じ王様の下でいろんな生命体で生まれて来るかという事があるでしょう？

と言うのはね、何の文献だったかな？西洋の文献で、今から20万年前から40万年前の時の王様が大体20万年で、大体8代の王様しか出ないわけです。だから、その時の寿命体は6万年とか5万年とかになるわけですね。これは西洋の方の伝説かそう言うお話。だからもう桁が違って来るわけですね。私達の小さい時は、人類史は5000年。ところが、ずうっともう上ってもう50万年とかそうになってしまう、今は。それで、だから、ブラフマダッタがバラナシのキングだったと言う時は、まあ寿命体が100万年から1000万年か分からないし。実に人間の寿命体が当然100万年、1000万、一億になる様なそういう事も書かれているわけですね。それは、まあ分からないけれど。

それが私の大問題で、カルパの問題とそれから次の弥勒様が出て来る時の時間帯、大乘では「56億7000万年後に」とか、そう書かれているし。それで、ある時は芥子の粒が城くらいの（大きさを）一杯に埋めて、それが一つ一つ無くなった時に100年に一回採った時に、それがワンカルパ（kalpa：劫）とか。もう、こう宇宙単位の時間単位が消え去ってしまっているわけ、それは今でも私は分からない。

ま、それは別として、そういう事で、何回もバラナシの王様はブラフマダッタと。その時私は猿だとか色んな、その間に何回も生まれ変わっているわけです。同じ名前の王様の下で。まあそういう事でね、何とも言えないけれど。お釈迦様のお話という事で非常に、伝説ではなく、そう言う話があったと。それで、ゴータマ菩薩が猿の時その時

はね、とっても力強くて、もうとっても強くてもう筋肉モリモリ。そして体もバンバンで。

そして、ちょうどガンジス川の河が曲がる所に住んでいたと。そしたら、そこに住むね、ガンジス川のワニさんがそれを見て、「いや、猿さんの心臓を食べたい。」と。「どうしてもあの心臓を食べたい」と言う女のワニさんがいるのです。そしたら旦那のワニさんがね「いやあ、そんなに食べたいのか」と。「お前はとっても良い私の嫁さんだから、では何とか取って来て食べさせてあげるから、そんなに悲しまないでくれ」と。それで、ゴータマ菩薩のお猿さんの所に行って「お猿さん、こっちの岸にはあんまり良い果物の気がないでしょう」と。「反対の方に行けば、もうありとあらゆる果物がなっています」と。「あっちの方に行きたくないですか」と。そしたら、ゴータマブッダがね「そうか、そんな良い所があるのか」と。

そのワニさんの言葉を信用して、ホイッとそう飛び乗ったわけです。そしたらワニさんがスーッと…、ガンジス川だから幅が広いしね、深いでしょう。この川もね、真っすぐだったら、ゆったりだけれど、グーッと曲がったら激しい所もあって、そう簡単に泳げないわけです。それで、ゴータマのお猿さんを水に落としたわけです。「いや、何て事をするんですか、私に」。「いや、実は私の嫁さんがね、あなたの心臓を食べたい、食べたいと昼も夜も思って嘆いて暮らしています」と。「それで、私が君の心臓を取って私の嫁さんに食べさせる為に今行くんだ」と。

そしたら、そのゴータマ菩薩が「何だ、そんな事なのか」と。「私の心臓はあのね」、小さい果物、あのフィギー (fig tree) って言う、日本語で言えばいちじくかな？フィギーは。そう言う果物あるでしょう。それが生っているわけ。「あの木の上に掛けているのですよ」と。「私がね、心臓を持って歩いていたら、私の心臓があちこち木に刺さって破れるから、お猿さんは誰も心臓を持って、木から木に飛んで果物は食べません」と。そしたら、ワニさん「ああ、そうだったのか」と。お嫁さんは「食べたい、食べたい」と。「よしよし。では私がその木にかけた心臓を取ってあなたにあげますから、岸まで連れてって下さい」と。そしたら、ワニさんが「よし、よし」と。それで連れて行って、その岸に飛び乗ったら「お前は馬鹿なワニだなあ」と。「この世で誰が、猿さんが木に心臓を掛けて飛び回る猿が居るか」と。「全ての猿は体の中にありますよ」と。

と言う風な似たストーリーがあって、ロシアは昔、仏教国だったのですね。だから今でも国会の近くには、あれがあるのですよ。チベタン仏教のお寺もあるし、それでそこからインドのダラムサラに勉強させに行くわけです。また、モンゴルでも一緒です。結局、あれですよ。ダライラマさんが亡命したから、そこに大学もあるし学校もあるし、もの凄くでっかいですよ。建物も。その外人が見える所ではそこで皆朝から晩まで何か討議したり、こう何かやっていたけれど。

それで、チベットのラサに行けば、今でもやっぱり昔風に一所懸命それなりの訓練をしていましたよ。ちゃんと。それで、特に大事なものは瞑想と問答。何かやるでしょう。

「ヤーッ！」って言って(手をパチッと打つ)。それで、問答を掛けて答えなければいけない。答えなければ負け。それで、「ヤーッ！」(手をパチッと打つ)と打ち返して、やるわけです。一日中そうやっていたよ。まあまあまあ、また余談になるけれど。まあ、そういう事で、その後その嫁さんが「まあまあまあ、あんなに美味しそうな心臓が食べられないで…」と、とっても悲しんだと言うお話なわけですね。

それで、お釈迦様がこう言ったわけですね。「実は私を食べようとしたクロコダイル、そのワニさんはね、私をその背中に乗せて、その妃の所に行くと言うのは、実はデバダッタだ」と。その嫁さんがシンチャ (Cinca)。デバダッタのお嫁さんね。プリンスだから。デバダッタも王族で。食べたいと言うワニはレディー・シンチャと言うのがその人のお嫁さんだと。それで「その猿さんは、実は私だった」と言うお話です。

「もうあなたは熱を冷ましなさい」

何故こう言う話が出たかと言ったら、お釈迦様がまた同じ僧院で、あるお坊さんがね、とってもとても恋に憧れて、夜も昼も寅さんみたいに(笑)、熱を出して寝込んでいるわけです。それでお釈迦様がその話聞いて「そうなのか」と。「いやこれは、彼は今始まった事では無い」と。「その昔、私がね、このお坊さんの前世を知っている」と。「その時、私はまたブラフマダッタの町で生まれ、その時私は道芸師の子供として生まれ、そして町で色んな物乞いして生きていた」と。「身なりも非常に醜く汚かった」と。「その時街に出て、食事の余りを貰いに歩いていた」と。

そしたらその時に、このお坊さんの前世は、ブラーミンの家族で非常に徳のある人だったけれども、非常に悪い奥さんを貰って。この奥さんは結局愛人が居るわけですね。それで旦那さんが出て行った後、愛人がスーッと入って来て、それで仲良くして、それで「お腹がすいた」と。それで何か作って食べさせたわけね。そしてそのドアのそばにずっと立って旦那さんが帰って来るかどうかという事を見張っていたら、サーッとこのブラーミンの旦那さんが帰って来たわけです。

そしたら、そのテーブルの上に、すぐカリースープがあったわけね。それを触ったら、上の方は熱くて下は冷たいわけだ。「これは一体どうした事か」と。「お前、誰か入れてこう食べさせたのではないか」と。「いや、そんな事は無いです」と。とっても平静で、一つも悪い事をしたって言う動揺も一つも無く。何回も何回も聞くけれど一つも慌てずに、平静でそう言うわけなのですね。

それで、ゴータマブッダが、その旅芸人の物貰いのちっちゃい子どもで、それを見ていたわけね。「いやあ、これはどうしようか」と。「この人にお話ししようか、どうしようか」と。それで、その旦那さんに「いや、実はあなたの奥さんは、愛人を引き入れて楽しんで、その愛人は倉庫の奥に隠れています」と。そしたらそのブラーミンが物凄く腹立てて、開けたらやっぱり隠れていたわけです。それで、もう引き出して。「二度とこんな

事はするな」と痛めつけて追い出したわけ。まあ、二人とも追い出したと。

それで、その話は戻るけれど、ジェータバナ（Jetavana：祇園精舎）のそのお坊さんが、恋に憧れた人はあなたの前の奥さんだったのですよと言うお話。因縁ですね。そしてそのお坊さんはもはやソーターパンナ（Sotāpanna：預流果）の位に上がっているわけ。そう言う話で「もうあなたは熱を冷まさない」と言ったわけです。まあ、その後ずうっと修行したのかもしれないけれど。結局そう言う風に徳を積んで来て、幾ら徳を積んでもやっぱりそう言うね、因縁で結婚するわけです。そのお坊さんは前の奥さんを亡くしたわけ。それで、二番目のこの奥さんの時に、何時でも「ああ、私の奥さんどうしてるんだろう」と。それでも、ソーターパンナになるのですね（笑）。

まあ、それだけお釈迦様の心力が強くて教え方が上手いのか知らないけれど。だから、結局また因縁に戻りますけれども、デバダッタがゴータマお猿さんを捕まえようとして殺そうとしたと。そう言う風なデバダッタでも、またソーターパンナに到達するわけですね。お釈迦様と何時もくっ付いて歩いているから。だから、仏に会うという事は、これは大変な事を貰うわけですね。ソーターパンナになれば7回、7世生まれる間に必ずアラハトに到達して涅槃に行くと言う。そう言う切符を手に入れるわけですね。そこに到達するまでが、またするかしないかでちょうど鯉の滝登りみたいになるわけ。何回も何回も。

ニミッタが安定するまで動かないでジーツと1時間位ただただ観る

【参加者】

明日の対策にちょっと教えて下さい。ニミッタらしきものに出会った時に、追っかけて行きたい、その中にこう入り込んで行きたい心境にかられるのですよ。そうした方が集中力もあるし、他へ気が移らなくて良いな、などと思ったりするのですが、行っちゃって良いものかどうか。

【水源師】

ダメです。そのニミッタを観たら、その中にジーツと最低1時間くらい居る様に。

【参加者】

動かないで？

【水源師】

動かないで、ジーツとして下さい。そして最低1時間くらいしたら、その使い方があります。但し2時間、3時間と言う風な長期の時間で出来る場合には、第一禅定に入る仕方を教えてあげます。

【参加者】

今日見えたのだけれど。

【水源師】

まあ、びっくりしないでそれを追わない様に。追えば消えてしまって、出ない事が沢山あるので。今のその心境でずうっと坐ってみて下さい。だから、坐り方も結跏趺坐ではなく、楽な姿勢で。楽な姿勢で。もう出来なければ、お年ですから椅子でも良いです。ただ、長時間座る必要があります。長時間座ると言うのは、強いニミッタという事。30分1時間はまだ弱いニミッタ。15分とか10分は、本当に弱いニミッタでなかなか使えません。ただその僧院とかそういう所で、条件が揃って全部忘れて出来るからね。こう言う社会で40分、1時間出すと言う事は、相当な事なのです。忙しい中で。だから、そう言う方が僧院に入れば、凄いチャンスがあるけれど、これもまた博打で「入った途端に上手く行かない」と言う人もまたあるわけだから、何とも言えません。チャンスは非常に高いけれども、100%と言う様に、私は言い切れない。だから、まあ因縁として、頑張ってもらって安定するまで。もしそういう事がそうだったら良いけれど、阿弥陀の国に行ったら、もっと早いからそれで良いではないかと。そうは思う(笑)。ね、まあまあ、そういう事で良いでしょうか。

【参加者】

はい。

【水源師】

はい。そのまま頑張ってください。

因縁でしか仏の近くに行けない

【参加者】

一つあるのですが、今のジャータカ物語で、仏に逢う事がとっても大切だって。出会う事が、近くにいる事が…。

【水源師】

そうそうそうそう。

【参加者】

さっきの法話の最初の方では、私達が「これが仏様だ」って言うのは、仏様ではない

と、仏様を見つけるのはとっても難しいって言うお話をされていたではないですか。そしたら、仏と近くにいるのは大切なんだけど、仏様に逢うのは非常に難しいって言う凄い矛盾ですよ。

【水源師】

んーやっぱりね「これが仏だ」と分かった場合は、殆ど仏ではないと。但しお釈迦様みたいにそう言う具現化した場合。それで、そのゴータマ菩薩の時は、お猿さんでしょう。お猿さんが仏と、誰が分かります？でも、その近くでデバダッタが何時もワニとしていたり、それからお釈迦様が鹿だったわけでしょう。それを追い求めて殺そうと。でも、そう言う因縁でも何時でも傍に居たら、そう言う良い因縁で今度はお釈迦様がプリンスと生まれたらデバダッタはその王族として生まれているわけです。それで、その因縁で今度はソーターパンナにまで上がったと。

【参加者】

そうすると、自分では仏は見つけられなくて、因縁でしか近くに行けない。

【水源師】

行けない。だからシャリプトラとか。シャリプトラ様とそれから大目蓮は鳥だったわけです。それで、ヒマラヤの山から飛んで大きな木の上に止まって、何時もピーチクパーチクやって、楽しく楽しんでいたわけです。その神木がお釈迦様。だから、その時鳥がね「これが仏だ」と分かる わけないでしょう。特に鳥で。それでお釈迦様が鹿でピョンピョン跳ねて素晴らしいけれど、「これはお釈迦様だ」と誰も分からないし。例えばお釈迦様が八万頭の像を連れて歩いている時に、人間が見て「これは仏になる人だ」って誰も分からない。という事を言っているわけです。で良いですか？

【参加者】

はい。有難うございます。

【水源師】

そういう事です。但し、今現代において「これこそ仏だ」という事は気を付けて下さい。それだけのものを持っているかどうかは、この方がちゃんと瞑想を教えられて、それだけの事を口では無く、実際としての的確に教えられるか。国を指導して、それから政治家を指導して、と言う。そう言う結果を出さずに、ただ皆がワイワイ言うのは殆ど偽物なのです。それで、そう言う人は後で分かるくらいで「凄い方だ」と。凄いお坊さんだという事生きている時は殆ど分からない。やっぱり凄いお坊さんでもやっぱり仏の位にあるからね。やっぱり聖者の位で、それはとっても高く評価しなければいけな

いけれども、殆ど分らない。

だから、お釈迦様のジャータカ物語も、偉いお坊さんをお坊さんが粗相をして、そして、食事を与えないで出したと。それでこのお坊さんはもう地獄に落ちるは、もう食べる事も出来ない。凄い苦労したのが、ローサカ・ティッサと言うお話をしたでしょう。それがお坊さんですら分らないのに、「これがペティカブツダの位にある」と。ただ物乞いをして普通に歩いているから。普通の人間が修行もしないで「これが仏だ」となったら、まあ殆どそれはおかしい事になる。

逆に本物のそう言う偉いお坊さんを、傷つけたりするかも知らない。そうなれば大変。その人は。ただその人が血を流したり、何かあったら国難が起きます。国難どころか何百万人と言う人が死んでしまう。それで、ボディーダルマ様は歯を折られたけれど、吐き出さなかった。グッと飲み込んだわけ。もし歯を吐き出せば、その時の中国は大天災に襲われて、作物が全部枯れてしまう。

という事で、千年前にスリランカで何か発生したかも知らない。その時に一つも食料が出て来なくて。そして、その時にまた沢山のアラハトが死んだとも言っている。食べられないで。それで、インドに逃げたアラハトが帰って来たら、全ての比丘尼のアラハトは死に絶えて、それで比丘尼の教団が潰れたと。と言うお話を聞いていますけれど。まあ、何かあったのでしょうかね。大変な事が。粗相があったかも知らない。それで、アラハトがいればそう言う風な大干ばつに会わないとは思いうし。だからスリランカでお坊さん方は、何があっても非常に大切にしていますよ。何があっても。南伝でも。ま、そういう事で。ま、触らぬ神にたたりなし（笑）。



北京 靈光寺 中国

水源禪師法話集 78

(2017年5月5日 大阪合宿7日目)

2018年3月5日 発行

編集兼発行 一乗禅の会